

『やまざと』近年号では、毎回、外国の山歩きなどを紹介しておりました。

今年もそのつもりが、写真を含めての纏める時間が取れず、講演要旨での紹介に留めました。

第58回 雲南懇話会 講演配布資料

2023年11月19日(日曜) 講演会 13～16時40分、茶話(懇親)会 17～19時

JICA(国際協力機構)市ヶ谷ビル・国際会議場。地図は、<http://urx.blue/V83y>

中国南部貴州省の少数民族の人たちとその生活 - 2019年の招待撮影行

長岡 正利

中国の貴州省は、雲南省から東方の湖北省に向かって低くなる、
標高1000m前後の、雲貴高原と呼ばれる起伏に富んだ山地になっ
ています。

貴州省の広域には古生代の石灰岩が分布して、中国有数のカル
スト地帯(中国南方カルスト)となっており、一部は世界遺産に登
録されています。大きな平地がないことから、「地に三里の平地無
し」と言われ、全域が亜熱帯高原であるため、極端な暑さ寒さは
ないものの、降水量は多く、晴天の日が少ないことから、「天に
三日の晴れ無し」。僻遠のこの地は、昔は貧しかったがゆえに、
「人に三銭の金無し」。

すばらしい自然に恵まれ、今は、近代化進展の中での心暖かな人達の地です。



(中国「貴州省」の位置)



貴州省の省都・貴陽市には、明の
萬曆帝の時代に、「科挙」合格者が
出ることを祈念した高秀楼が現存。



市街地から離れた農山村にも、
突然に高層ビル群が出現。



山間部が多く、農耕地の殆どは
見事に作られた棚田。



少数民族「苗(ミャオ)族」の一聚落。
下写真の「黔东南苗族侗族自治州
雷山県 郎德苗寨」で。

貴州省の人口は約3856万人で、漢族が64%(約2637万人)。少数民族で多いのは 苗 族463万人で、
以下、布依族308万人、侗族193万人と続きます。省面積の1/2以上が少数民族の自治区域となっ
ています。〔以上の統計データの出典は、2022年・中文版「維基百科」など。〕

秘境の名の高い貴州ですが、省都・貴陽は昆明などからの全国高速鉄道網に組み込まれ、全国土に
広がる五縦七横の国家級高速道路のほか、省級の高速道もあって、小規模聚落にも舗装道路が通じ
ています。

ここでは、省都・貴陽市や古都鎮遠などに加えて、6つ少数民族地の人たちと、
その生活を紹介します。なお、民族が同じでも、その聚落(寨;村)が違えば、
人々の装いなどは違うのが普通です。下は、苗族の「郎德」村にての。



村の入り口で、歓迎の蘆笙演奏。
(貴州省の「郎德苗寨」で。)



広場の中央での蘆笙。重低音の
大笙から、旋律演奏の小型まで。
昔が想われる懐かしいメロディの。



蘆笙を囲み、終出での旋廻。



村へ入る前のお酒でのお出迎え

【参考資料】「貴州省日本観光センター」ホームページ(邦文版)；綺麗な写真もご覧になれます。

中文版Wikipedia(維基百科)の「貴州省」と、Web「人民網」中文版トップから→「地方」→「黔」→「貴州省」

2015年ネパール大地震でのランタン谷氷河崩壊被災地の現況と観光地化の進展

— 死者不明者約350人のこの地は、被災履歴から、住むべき地ではなかった —

長岡 正利

ランタン谷は、1949年に英国人・ティルマンが訪れて「世界で最も美しい谷」と称賛したことで知られています。

「ランタンヒマール」と言われるこの地は、首都カトマンズから近い北方に位置し、ランタン国立公園の一部となっています。

谷沿いには、5000～6000m峰が連なり、最高峰はランタン・リルン(標高7245m: 1961(S36)年に大阪市立大学山岳会の3人が遭難死、1978年に同会が執念の初登頂を。)

演者は、2007年8月(モンスーンの最中)と、今年の春4月に、この地を訪問しました。その16年を隔てての、驚くべき大変貌(ロッジなどの大增築)と、2015年ネパール大地震での山頂下のランタン村の被災状況及び復興の現況を、200枚程の写真で紹介します。



南東側から見た、ランタン・リルン頂上



16年前は深い針葉樹林中に1軒の「ラマホテル」のみだったが、今や、登山道の両側に数軒のロッジが林立して、大賑わい。

注: その名称は、谷奥のキャンジュン・ゴンパ(チベット仏教のお寺)に行くチベット仏教僧がここを宿营地とした故の地名で、「ホテル」ではない。

2007年時点のランタン村と、現在の被災地を、同じ視点から。上写真(モンスーン期の雨天)をよく見ますと、急斜面に3筋の細流があり、現在(右上写真)では、植生が剥ぎ取られて岩壁となりながらも、その3筋の細流位置は、岩壁を刻む溝として見えています。

上述の地震では、山頂直下の懸垂氷河の崩壊掃流・爆風で、ランタン村全域が潰滅したもので、巨大な岩壁の下にあった3階建てロッジが1軒だけ残りました。崩壊の直撃のほか、爆風による家屋倒壊、対岸斜面の樹林地にまで被害が及びました。なお、1970年のドイツの航測地形図からは、死者が多かった被災地域(平坦で住みやすい)には、その頃までは家がなかったことが明瞭です。

(日本でも、その様な事例(過去の伝承から「住むべき地ではない」地が住家連坦となって、大災害)は随所。)



ランタン谷奥に見えてくる
美しいヒマワリ装のガンチェン 6387m



谷の南側の山々



飛雪のランタンリルンと満開の石榴花。様々な花色。神猿、ハスマンラングーも。



日本の春にも見られそうな、山野の花も。順に、エニシダ・ヘビイチゴ・サクラソウ・アヤメ・ネコヤナギの、各仲間(種名不詳)